

横須賀市中小企業景況レポート

第 37 号 (令和 4 年 1 月号)

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町 11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：172社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査157社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和3年7～9月の景況感（調査時点 令和3年9月1日）
今期・・・令和3年10～12月の景況感（調査時点 令和3年12月1日）
次期・・・令和4年1～3月の景況感（調査時点 " ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページにD I 値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

* D I 値調査結果は裏面に記載

* 【 】は今期のD I 値を記載

全業種の景況感は、前期の△18Pから14P改善し、【△4P】となりました。

今期の景況感は、不動産業【14P】、サービス業【△13P】が、それぞれ40P、34Pと大幅に改善し、他の全ての業種も前期より改善しました。

項目別では、売上額【△7P】、収益【△12P】が、それぞれ11P、20Pと大幅に改善しましたが、雇用人員【△31P】は9P悪化しました。

全業種の景況感は、3期連続で改善し、昨年同期（令和2年10月～12月）との景況感比較は、「悪い」が3割ですが、今後の新型コロナウイルス感染症の情勢によって変化すると予想されます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

良い (15P以上)	やや良い (6P～14P)	変わらない (△5P～5P)	やや悪い (△6P～△14P)	悪い (△15P以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

*【 】は今期のDI 値を記載

(1) 製造業 景況感 【△2P <変わらない> →】 (前期比1P)

前期と比べ、収益【△5P】が、16Pと大幅に改善し、資金繰り【△5P】も8Pとやや改善しました。

次期は、原材料の高騰・不足の影響もあり、全項目で悪化する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・現状の受注は昨年度と概ね同程度だが、今後については原料高の影響で、先が見通せない状況。
- ・原材料高騰により、特に収益面での影響が大きく昨年度と比較すると景況感は悪化している。


(2) 建設業 景況感 【△9P <やや悪い> ↘】 (前期比9P)

厳しい状況が続く中、前期と比べ売上額【△15P】、収益【△27P】、雇用人員【△36P】が、それぞれ6P、6P、9Pとやや改善しました。

次期は、売上額、収益、雇用人員がさらに改善する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・工事中止等もないため売上高は例年並みか微増となっている。
- ・新規で契約をとれるような動きは出ているが、木材や原油の高騰、半導体不足等で、2割ぐらいコストが上がっている。
- ・社員が増えれば売上も多少伸びるが、月によって波があるので給料の支払いが難しくなかなか社員を増やすことができない。


(3) 卸・小売業 景況感 【 0P <変わらない>  】 (前期比6P)

前期と比べ、売上額【4P】、収益【△10P】、がそれぞれ14P、13Pと大幅に改善しましたが、雇用人員【△33P】が14Pと大幅に悪化しました。

次期は、全項目で改善する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・緊急事態宣言解除後、企業や役所関係からの依頼が以前の状況に戻りつつあり、クリスマスやお正月に向けて依頼が増加した。
- ・昨年同様イベントは中止になったが、コロナ禍からの回復により来店客数が増えた。
- ・主要取引先のスーパーの売上は安定。個人宅配の新規開拓に継続して取り組んでおり一人当たりの業務が増え、常に従業員を募集している状況である。

(4) 不動産業 景況感 【 14P <やや良い>  】 (前期比40P)

前期と比べ、売上額【0P】、収益【0P】、雇用人員【△7P】が、それぞれ26P、26P、13Pと大幅に改善し景況感は一転に転じました。

次期は、売上額、収益がさらに改善する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・緊急事態宣言が解除になり、経済活動が平常化しつつあることで、物件の相談件数が増え、それに伴い成約件数も増加した。
- ・ウッドショックの影響は緩和傾向にあるが、建築資材の単価が高値であることが懸念される。
- ・コロナ禍も落ち着きを見せ、賃貸物件も多少動き出すと思われることから、1～3月の売上は前年比10%を増加を見込んでいる。

(5) サービス業 景況感 【 △13P <やや悪い>  】 (前期比34P)

前期と比べ、売上額【△17P】、収益【△13P】、資金繰り【△15P】が、それぞれ21P、43P、26Pと大幅に改善しましたが、雇用人員【△36P】は、30Pと大幅に悪化しました。

次期は、概ね横ばいですが、資金繰りは悪化する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・緊急事態宣言が解除され、徐々にではあるが客足が戻ってきている。年末にかけ忘年会等外食の機会が増加。年始から近隣神社等への人出も例年並みが予想され、人流も活気が出てくると思われる。
- ・日中の配車依頼は堅調に推移。新型コロナウイルス感染症が収束傾向にあり、飲食店の酒類提供が再開されたことで、コロナ禍以前の水準まではいかないものの、夜間の利用客も増えている。

DI値 調査結果

前・・・前期 令和3年7月～9月の景況感（調査時点 令和3年9月1日）
 今・・・今期 令和3年10月～12月の景況感（調査時点 令和3年12月1日）
 次・・・次期 令和4年1月～3月の景況感（調査時点 令和3年12月1日）



業種別調査企業数(回 業種別調査企業数 (回答数))

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	167	38	33	47	15	34
今期	172	39	33	46	15	39
次期	172	39	33	46	15	39

(単位：ポイント)

業種 項目	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
良い(A)	19	26	19	29	31	21	12	18	18	28	28	20	7	27	27	9	23	13
変わらず	44	44	58	39	36	51	58	55	61	38	44	65	60	60	60	35	41	54
悪い(B)	37	30	23	32	33	28	30	27	21	34	28	15	33	13	13	56	36	33
DI値(A)-(B)	△18	△4	△4	△3	△2	△7	△18	△9	△3	△6	0	5	△26	14	14	△47	△13	△20
今-前 / 次-今	14	0		1	△5		9	6		6	5		40	0		34		△7
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
好転(A)	19	24	22	26	23	13	12	21	18	26	30	30	7	27	33	12	21	18
変わらず	44	45	54	45	49	59	55	43	58	38	44	55	60	46	47	38	41	49
悪化(B)	37	31	24	29	28	28	33	36	24	36	26	15	33	27	20	50	38	33
DI値(A)-(B)	△18	△7	△2	△3	△5	△15	△21	△15	△6	△10	4	15	△26	0	13	△38	△17	△15
今-前 / 次-今	11	5		△2	△10		6	9		14	11		26	13		21		2
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
増加(A)	10	22	18	18	26	15	3	9	12	17	20	22	7	27	27	0	28	18
変わらず	48	44	56	43	43	57	61	55	61	43	50	61	60	46	53	44	31	46
減少(B)	42	34	26	39	31	28	36	36	27	40	30	17	33	27	20	56	41	36
DI値(A)-(B)	△32	△12	△8	△21	△5	△13	△33	△27	△15	△23	△10	5	△26	0	7	△56	△13	△18
今-前 / 次-今	20	4		16	△8		6	12		13	15		26	7		43		△5
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
多い(A)	6	1	1	13	5	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	12	0	0
適正	66	67	69	53	62	64	55	64	73	77	67	70	80	93	87	70	64	67
少ない(B)	28	32	30	34	33	33	45	36	27	21	33	30	20	7	13	18	36	33
DI値(A)-(B)	△22	△31	△29	△21	△28	△30	△45	△36	△27	△19	△33	△30	△20	△7	△13	△6	△36	△33
今-前 / 次-今	△9	2		△7	△2		9	9		△14	3		13	△6		△30		3
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
余裕がある(A)	7	10	9	16	13	13	3	6	6	9	11	13	7	7	7	0	13	5
支障がない	68	67	68	55	69	66	82	73	64	70	61	67	86	86	86	59	59	64
苦しい(B)	25	23	23	29	18	21	15	21	30	21	28	20	7	7	7	41	28	31
DI値(A)-(B)	△18	△13	△14	△13	△5	△8	△12	△15	△24	△12	△17	△7	0	0	0	△41	△15	△26
今-前 / 次-今	5	△1		8	△3		△3	△9		△5	10		0	0		26		△11

<参考> 昨年同期と現在の景況感比較(回答162社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	39社	24%	15%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	74社	46%	45%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	49社	30%	40%
DI値(A)-(B)		△6P	△25P

